

川崎の男女共同社会をすすめる会通信 No.185

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com ☎&FAX 044-944-7872 ●発行日2017年 9月10日
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

核兵器禁止条約が採択されました！ 122カ国が賛成

国連の軍縮会議で7月7日、人類史上はじめて核兵器を違法化する同条約が122カ国の賛成で採択されました。

コスタリカ出身のエレン・ホワイト国連議長と中満泉国連軍縮担当上級代表は、参加国の意見を対等平等に吸い上げ、粘り強い話し合いを経て同条約をまとめ上げました。

核廃絶を求める世界の世論が国連を動かしました。1970年に発効した核不拡散条約での5年ごとの再検討会議での削減では、核廃絶にたどり着けないこと。持つ国と持たざる国の2分化

は核抑止論を利するだけで、多くの国はおびえていなければならないこと。「二度と被爆者をつくるな」という被爆者の悲願。「悪魔の兵器をなくしてほしい」と被爆の実相を伝えながら広げた核廃絶を訴える署名などの世論です。同条約の前文には2回も被爆者について言及しています。

日本政府は核保有国とともにボイコットしました。

9月20日に条約の調印が、すべての国に対して開かれます。批准した国が50カ国を超えたのち90日で発行となります。(関連記事差込みページ)

働く人が覚えておきたい
ワークルールの話
使う！活かす！
すすめる会の学習会No.2

みんな輝きたい！
ひとりひとりの
人権を守る働き方
ワークルール編

2017
10/1(日)
13:30~16:00

★相談タイム
16:00-16:30 無料
講師が希望者に
個別で応じます

①「M字カーブ」解消アンケートから見える
女性の働き方 (2016.10~12かながわ女性会議実施の調査)
小島八重子さん (かながわ女性会議)

② 生き生き働き続けるには…社会保障など
榮 恭子さん (社労士)

③ ワークルールを活かして働こう
林 裕介さん (弁護士・川崎北合同法律事務所)
ワーカーズネットかわさき※

④ みんなでトーク
残業代払われないみたい… アルバイトでも有給
休暇あるの？ 労働契約って何だろう… 働くこ
とでぶつかる疑問や悩み、みんなで考えましょう。

※M字カーブ
女性の労働力率の変化を年代別
に見たとき、結婚・出産期に一
旦低下し、育児が落ち着いた時
期に再び上昇するという、いわ
ゆるM字を描くこと
※ワーカーズネットかわさき
働き方の問題の相談や解決に取
り組む、若手弁護士を中心とし
たグループ
(NPO法人申請中)

●場所 川崎市男女共同参画センター
すくらむ21 第1・2研修室(2F)
▶先着30名(事前申し込み/空きがある時は当日も可)
▶資料代:300円 *保育あり(先着10名 申込み裏面)
アクセス▶ JR南武線「武蔵溝ノ口」駅
東急田園都市線、大井町線「溝の口」駅より徒歩10分



楽しく… 美味しかった！ RPGで学ぶ ワークルールC a f e 8/27

まだ暑い日曜の夕方、若い世代やちょっとおじさんになりかけた「青年」たち25人がメサグランデに集まりました。流行りのゲームをワークルールを学ぶツールにして、ブラック社長や勇者の掛け合いとおなじみのクイズ。作者はワーカーズネットの林弁護士。料理もメンバーの手作り、カレーが好評でした。すすめる会から3人参加。楽しい学びと交流になりました。

2017年 原水爆禁止世界大会に参加して

杉目待子

今年の大会は、7月7日に国連で「核兵器禁止条約」が採択された喜びと高揚感に満ちていた。

開会総会に登壇した弁士は必ずそのことに触れ、特に海外代表は「被爆者と日本の市民社会の72年に渡る努力」を称賛した。また広島での慰霊祭において、唯一の被爆国政府代表である安倍総理は挨拶で「核兵器禁止条約」を否定、被爆者や国民の願いに背をむけた姿勢に怒りの声がつづいた。

8月7日の朝、私達23人(川崎医療生協の10、新婦人6、市議2、平和委員会・原水協5)は、神奈川県代表団の第1便、羽田8:15発で長崎空港へ向かい11:30頃ついた。

開会総会までの時間帯はホテルに荷物を預け、食事後に片柳市議の案内で、片足鳥居で有名な山王神社に寄った。被爆楠木は樹齢1000年を超しているような大木で、樹木医の手当てで甦り青々とした葉を茂らせ、私達を南国の強い太陽から涼ませてくれた。昔は4の鳥居まであったそうですが、上にあった3・4の鳥居は爆風でなくなり、下にあった1の鳥居は残ったものの交通事故で取り払われ、今でも残っている片足鳥居は2番目で、少しずれたが残ることができたそうです。爆風のすさまじさを実感できる石造りの片足は参道に横たえられていた。

・開会総会

開会総会は3時半から会場は市立体育館です。3時前から大勢の人であふれ、私達は空席を探してバラバラに座りました。田上富久長崎市長のあいさつに続いて、翁長雄志沖縄県知事からのメッセージが紹介され、連帯の拍手にわいた。

国連軍縮問題担当上級代表の中満泉さんは「条約の核心は核兵器を否定し、それを国際法として成文化した点にある。国での採択は始まりに過ぎない、これから締約国の批准をすすめ、核保有国やその軍事同盟国をどう巻き込んでいくのか新たな課題に挑戦しよう。」と力強く発言した。

夜は、川崎の代表団の交流会に参加し、夕食をかねた交流で自己紹介し、懐かしい歌を唄った。

・分科会

2日目の分科会は第4「憲法9条を守り、憲法生きる日本を」に参加、会場は長崎大学経済学部へ市電の新大工町から10分歩く長崎病院よりさらに坂を上って裏門から入ったところでした。

広い講堂は冷房が入っていた。講師は午前に関西学院大の富田宏治氏が「核兵器禁止条約が国連で採択されたことで、世界政治に4つの不可逆の流れが定まった。①民主主義の前進—市民社会の関与、②法の支配・法的拘束力のある措置、③抑止力の批判、テロの拡散・非人道的、④国際紛争の平和的解決へのツール。」と語った。

午後は慈恵医大の小沢隆一氏が「現在の日本の政治状況をどう見るか「安倍総理の焦りの表れ」が第2次安倍内閣以来起きていることの核心だ。

- ①日米軍事同盟（核抑止論）にしがみつく
- ②秘密保護法・戦争法を作ったけれど使えない
- ③共謀罪も押し通したが、邪魔な憲法9条
- ④公明党の加憲論に飛びついた。

だから、9条1項・2項はそのまま残し、新たに3項に自衛隊を軍隊と書き込もう、これなら国民をだませる」と考えた。

法学上の考え方は「すでにある法に追加項目が増えた場合は、新しい項目が優先されるため、以前からある項目の効力はなくなる」と語った。

有識者たちが安倍発言の後に「それでは9条は死文化する」といっていたことがよく分かった。

参加者は150人で各地（宮県・東京・岐阜・福岡・京都・静岡・大府・北海道・大分・神奈川）の取り組みが報告された。

13条・25条・29条を根拠に闘う年金裁判、平和教育・主権者教育の取り組みや、軍事費削って医療・福祉になどの発言も相次ぎました。

先生は「何度もマスコミに踊らされ、政治不信で棄権する人が2000万近くいる。この層に被爆の実相を知らせ核抑止論の誤りを知らせる。今まで知り合ったことのない人たちとも一緒に共同行動を広げていく、下からの統一を野党にせまる。

一致点を見つけて国民主権を貫き通す、核兵器禁止条約の署名の広がりこそが憲法を守る力となる。」と纏めた。

2日目の夜「女性のつどい」も体育館でした。レイラの女性平和基金で招待した海外代表（アメリカのケイラ・ウォーリーさん、フランスス・ヤスミン・モテイワラさん、ヨルダンのイマン・アル・オマリさん）の3人をはじめ沢山の海外女性が参加していました。女性たちは挨拶のなかで、新婦人の粘り強い署名活動をたたえ、招待に感謝し、母国での活動を語ってくれました。

ケイラさんは平和行進国際青年リレーに東京～神奈川を歩いたのは、昨年の招待者ヘイリーさんに進められて参加。フランススさんはロスアンジェルスピースアクション本部でおとしまでの8年間訪問チームの責任者として働く活動家です。

イマンさんはボストンの中近東大学プロジェクト「夾竹桃イニシアチブ」の一員で平和教育推進している方です。私は持参した折り鶴を中近東の女性たちにプレゼントしました。

・閉会総会

3日目は11時から平和公園での慰霊祭もあり、そちらに参加する方もおられました。私は前回（2003年）の時に長崎の慰霊祭にでているので、今回は閉会総会に参加しました。

閉会総会の会場も体育館です。司会者が「皆さんへのサプライズプレゼントがあります」と今朝届いた国連の核兵器禁止条約交渉会議のエレン・ホワイト議長から「みなさんのリーダーシップを頼りにしています。私の決意は揺らぐことはありません」とのメッセージが読み上げられ、大きな拍手にわきました。

フィナーレでは運動団体がカラフルな横断幕をたずさえて次々に登壇し、それぞれの取り組みの紹介と核なき世界づくりのために新たな取り組みへの決意表明がなされました。

日本原水協の安井正和事務局長は、「核兵器禁止条約を力に完全廃絶に向けて運動を前進させよう」と訴え、「禁止条約を支持するあらゆる団体・個人と対話し、協力して新しい国民的協同に踏み出そう」と呼びかけました。被爆者5団体が「総理あなたはこの国の総理か、いまこそ日本が核兵器廃絶の先頭に立つべきです」と要望書を手渡した報には共感の拍手がわきました。世界大会・長崎決議「長崎からのよびかけ」を満場の拍手で採択しました。

・原爆資料館

帰りの飛行機は最後の3便（川崎は羽田に近いから）になり、待ち時間に原爆資料館に寄った。隣に新しく国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館ができていた。広くて綺麗なギリシア神殿のように高い柱の並んだ追悼空間の正面には原爆死没者の名簿が収められており、その向こうが原爆投下地点だった。ビジュアル化された物が増えていた。

爆心地に近い浦上天主堂は破壊され一部分や復元が資料館に保存されていた。

パイロットが目的地の小倉が視界が悪く、たまたま雲の晴れ間で見えた長崎に落としたと、アメリカの記録で分かったそうだ。戦争の理不尽さ、愚かさ、そんな偶然が長崎の町を地獄に変えたとはなんともやりきれない思いがした。稲佐山の影になって大浦天主堂は残り、グラバー邸とともに観光名所になっています。

政府の愚かな選択が、国民を地獄の苦しみに突き落とす「核兵器は人道に反するだけでなく、国際法にも違反する」ことになった核兵器廃絶条約を日本政府に批准させる運動を強めよう。

女性ニュース

・ベルリンで日韓の女性行動

8月14日ベルリン中心部のブランデンブルグ門前で、日本軍「慰安婦」問題を広く知らせ、日本政府の公式な謝罪、補償を求める行動が行われた。ドイツに住む日本人女性たちの「ベルリン女の会」や、在独韓国人の団体「コリア協議会」などが主催。行動では、浴衣や韓服などの民族衣装を着た女性たちが、韓国、北朝鮮、インドネシア、フィリピン、オランダ、東チモールなど9人の「慰安婦」被害者の肖像を掲げ、被害者が生きている間に尊厳を回復させようと訴えた。

・沖縄のおばあ、国会内で講演

8月17日、沖縄県名護市辺野古在住の島袋文子さん(88)が長年米軍基地建設反対ですわりこみをつづけてきた体験をかたった。聞き手はドキュメンタリー監督の三上智恵さんと2人の高校生。「命の海を埋め立てることは許されない。本土の皆さん力を貸してください」と訴えると、会場から拍手が起こった。

・立ち上がる女性たち

8月19～20日、第63回母親大会が岩手県盛岡市で開かれた。「核戦争から子どもの命を守りたい」と始まった母親運動。国連で「核兵器禁止条約」が採択された喜びと「運動すれば成果は得られる」との確信に満ちた大会となった

東日本大震災から6年半、被災地訪問をはじめ、生活要求に根差した多彩な分科会や全大会に延べ17,000人の女性が参加した。

全大会の会場となった盛岡タカヤアリーナの壁には23,000枚のつぶやきカードが張られ、「復興を国の責任で」「原発に頼らないで」など切実な願いが書かれていた。各地からの報告や、分科会での活発な討論を経て、「命を守り、育てる平和な世界と日本を築くために運動の継続・発展」を誓い合った。

・無国籍者 700 人に

25日、総務省集計の結果、8月10日時点で、出生届けが出されていない無国籍者が700人いると発表した。その7割が民法772条が定める「嫡出推定」で夫や元夫の子とするのを避けるため、母親があえて届けられないケースです。

無国籍者は潜在的に1万人を超えるとの見方もあり、同省は無国籍状態の解消について法務局などに相談するよう呼び掛けている。

・世界で女性活躍

パリで行われているレスリングの世界選手権で、23日女子55キロ級で奥野春菜が金メダル。24日48キロ級で須崎優衣が金メダル。60キロ級で川井梨沙子が金メダル。69キロ級で土性沙羅が金メダル。53キロ級で向田真優が銀メダルを獲得。

イギリスのグラスゴーでおこなわれているバトミントンの世界選手権で27日女子シングルで奥原希望が金メダルを獲得。

これからの活動

- 9月11日(月) ワーカーズネット運営委員会
てくのかわさき 18:30～
- 9月13日(水) 幹事会 13:30～ すくらむ 21
- 9月27日(水) 幹事会 10:00～ すくらむ 21
- 9月28日(木) 街頭相談 溝の口駅
- 10月1日(日) 第2回ワークルール学習会
13:30～ すくらむ 21

活動日誌

- 7月27日 街頭相談 溝の口駅
- 7月31日 林祐介講師との打ち合わせ
北合同法律事務所
- 8月24日 ワーカーズネット打ち合わせ
街頭相談 川崎駅
- 8月27日 ワークルールカフェ参加
- 8月30日 幹事会 すくらむ 21



日本母親大会参加の後に 被災地の友人を訪ねて

黒田信子

盛岡での日本母親大会（8/19-20）に参加してきました。雨が続けていたので涼しいかと思いましたが、やっぱり母親大会が暑かった。

全体会終了後、川崎の皆さんと別れ、盛岡駅から一関駅まで新幹線に乗り、さらに大船渡線で気仙沼へ。そしてBRTというバスで陸前高田まで行きました。震災で大変な思いをした友達に会いに行ったのです。陸前高田に1つしかないホテルに迎えに来てもらい、真暗な中、走りまわりました。

次の日、窓から見えたのは海のそばの大きなコンクリートの堤防と、かさ上げされた土の山だけでした。その間を何台もダンプカーが走っていました。本当に何もありません。

ご夫婦で会いに来てくれました。30年ぶりぐらいでしょうか？涙が出ました。息せき切ったように話します。あんな無口だった夫さんがと、驚きました。

「大きな地震にびっくりして、少しおさまってきたから片付けなくちゃと思っていると、ドーンと凄いの音がしたけれど、海から4キロも離れていたし、津波なんて考えもしなかった」と言います。

「近所の人が大い声出しているのを見ると、川を水がどどどんのぼってきていて、慌てて坂の上へ駆け上った」そうです。

「自分でもこんな力が出るんだとびっくりするぐらい走って、すぐ後に行が来ていてあと何秒かで流されるところだった」そうです。

「寒い中、高台のお家に避難させてもらい、4家族で山の水を汲んできて、薪を割り、少しの食料を分け合って生活した。着の身着のまま、お風呂もなく1週間以上過ごしたけど、何も感じなくなっていた」と言います。

そんな頃、私からの葉書が届き、びっくりして泣いてしまったと…。

私は、連絡もつかないし、海から離れていると聞いていたので大丈夫だと思いつつ心配していました。ある時テレビを見ていたら、郵便屋さんが、少しでも探して届けられるものは届けたいと頑張っている姿が映し出され、私も葉書だけでもと祈る思いで送ったのです。

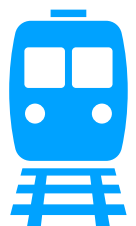
返事が来たのは4月末でした。やっと草ボーボーの壊れかけた家を借りて、家族3人暮らし始めた後、でも何もできない。どうしていいかわからないと寂しそうな手紙に涙がでました。急いで衣類や生活用品を送り、この6年半、月に1度ぐらいつつ送り続けてきました。仮設住宅にも入らず支援物資も届かず、ずいぶん辛い思いをしたようです。3年ぐらい何も考えられなかったと言います。

今は土台だけ残った家の後を耕して畑を作り野菜を育てているそうです。そしてやっと新しい家を借りられることになり、娘さんも働いて何とか生活できるようになったと明るく話してくれました。

その後、お友達に借りた車で陸前高田をぐるっと案内してもらいました。何も無い中に、ショッピングセンターが作られていて、道路だけはかなりできていますが、まだまだ住宅は山のほうだけ。1本松も寂しく立っていました。

気仙沼まで案内してもらい魚市場などを見て、午後気仙沼から電車に乗り帰りました。

疲れましたが気持ちが落ち着いて明るく帰れました。6年半過ぎてもまだまだ震災が終わっていない。復興はこれから、地元の人たちの気持ちに沿った手助けが必要だと思えました。



核兵器禁止条約、採択 日本や5核保有国は不参加 7/8 朝日デジタルより



核兵器の使用や保有などを法的に禁ずる核兵器禁止条約が7日午前（日本時間7日深夜）、米ニューヨークの国連本部で開かれている条約交渉会議で採択された。広島と長崎への原爆投下から72年。「ヒバクシャにもたらされた苦痛」との一節を前文に入れ、人道的見地から核兵器の存在を否定する条約が誕生した。

この日の交渉会議には国連加盟193カ国中124カ国が出席。投票の結果122カ国が賛成した。北大西洋条約機構（NATO）に加わるオランダが反対。シンガポールは棄権した。

条約は核兵器の使用、開発、実験、製造、取得、保有、貯蔵、移転など幅広く禁止。当初案で除外されていた、核使用をちらつかせる「脅し」の禁止も最終的に盛り込まれた。また、核兵器の使用や実験の影響を受けた人々に、医療などの援助を提供することもうたった。

9月20日から各国の署名手続きが始まる。批准国数が50カ国に達した後、90日をへて発効する。ただし、批准しない国には効力がない。条約推進国側は、核兵器の「非人道性」を強調することで国際世論を喚起し、核兵器の廃絶を後押しする狙いがある。

日本政府は3月の交渉会議で「北朝鮮の脅威といった現実の安全保障問題の解決に結びつくとは思えない」と表明し、5核保有国などと歩調を合わせてボイコットした。米国の「核抑止力」を国家安全保障の柱に据える国々は、近い将来の条約加盟が見通せない状況だ。（ニューヨーク＝松尾一郎、金成隆一）

条約の要旨を抜粋（全20条）

第1条 禁止事項

- (a)核兵器の開発、実験、生産、製造、取得、保有、貯蔵、(b)核兵器の移動。
- (c)核兵器の受領。(d)核兵器の使用、使用の威嚇。
- (e)条約で禁止された活動の援助、奨励、勧誘。
- (f)条約で禁止された活動について援助の要請、受取。
- (g)自国領域での核兵器の設置、配備、その許可。

第4条 核兵器の全面的廃絶に向けた措置

核兵器を保有する国は、直ちにそれらを運用態勢から撤去し、計画に従い廃棄する

第6条 （被害者に対する援助及び環境の回復）

核兵器の使用・実験の影響を受けた個人に差別なく適切な支援を提供